

【令和元年度実施】平成 30 年度事務事業 二次評価について（報告）

1. 実施体制

多様な観点の取り入れ、職員の人材育成、町民への説明責任の履行等の効果を得るために、A～Dの4種の二次評価チームを組織した。

チーム	構成	人数
A 1	課長補佐・係長・主任クラス職員、企画財政課職員	7名
A 2	課長補佐・係長・主任クラス職員、企画財政課職員	7名
A 3	課長補佐・係長・主任クラス職員、企画財政課職員	7名
B	副町長・企画財政課長、企画・行革・財政担当者	5名
C	行政改革推進委員会委員 2名（内 1名は日程により入れ替わり）、企画財政課長、総務課長	4名
D	行政改革推進委員会委員	4名

2. 実施事業数・スケジュール等

二次評価を実施した日数及び事務事業数は、次のとおり。

チーム	6月	7月	8月	日数合計	事務事業数
A 1	6/14	7/5、26	8/2	4日	20事業
A 2	6/14	7/5、26	8/2		25事業
A 3	6/14	7/5、26	8/2		23事業
B	6/26	7/2、7/9、 7/12、7/18、 7/30	8/6	7日	43事業
C	-	7/23、24	-	2日	10事業
D	-	-	8/8	1日	7事業
合計				14日	128事業

### 3. 二次評価の対象とした事務事業

類型	説明	事務事業数
一般型	個人への給付金等、町の裁量で実施する事業	87事業
建設・整備型	施設の建設や大規模改修等、道路や公園の整備等（投資的事業）	2事業
施設管理型	施設の維持管理運営・軽微な維持補修、指定管理	26事業
義務型	町の裁量に関わらず法令等で実施が義務付けられた事業	9事業
緊急型	災害復旧等	0事業
内部管理型	予算編成、人事管理等、直接町民サービスを伴わない内部的・定型的な事業	4事業
合計		128事業

### 4. 二次評価結果 方針区別事業数

方針区分	事業数	割合
A 廃止/休止	9	7.03%
B 他事業と統合し組替	11	8.59%
C 予算削減を伴う見直し	31	24.22%
D 予算増減のない見直し	44	34.38%
E 予算拡充を伴う見直し	9	7.03%
F 事業の見直しなし	23	17.97%
保留	1	0.78%
合計	128	100.00%

### 5. 二次評価結果の取り扱い

二次評価によって得られた意見や方針については、企画財政課から事務事業所管課へ報告する。

二次評価は、事業の実施手法及び効果等について庁内第三者や外部有識者等からの意見等をいただくことで、事業の今後の方向性を共有するものであって、結論づけるものではないが、今後の事業見直しや翌年度以降の予算要求及び予算編成過程において重要な参考となるため、明確な理由なしにその方針を反故にするものではない。

このことを踏まえ担当課において、事業の見直し及び予算要求方針を決定し事務事業評価シートに入力後、当初予算要求時に提出する。（11月）

## 6. ふりかえり

文責：企画財政課

- 仕方なく、参加したくなかった評価者が6割以上。参加後は全員「とてもよかった」もしくは「よかった」と回答。
- 評価者の事前準備に余裕がない、当日のファシリテーターの技量・知識量に影響されることや、担当課の記入の不備や資料（情報）不足等が原因で、十分な評価ができなかった事務事業もあった。
- 職員の意識改革や人材育成、今後の政策形成等に有効。将来的な業務の負担軽減、コストの削減に有効との回答は少なかった。
- スケジュールと事前告知、事業の単位、対象事業の選出、評価者の人数、類似事業のセット評価、会場、職員負担軽減、評価シートの書き方の不統一等について改善意見があり。
- 職員人件費を含まない評価としたため、正確な評価であったとは言い難い。むしろ人件費が重要との指摘があった。次年度は、職員人件費を把握し評価シートに落とし込む。
- 職員負担増。
- 継続することで庁内に改革風土が情勢され、質の高い行政サービスの提供、政策形成能力の向上につながる。
- これだけの時間と労力をかけて事務事業評価を実施しているため、事業（行政サービス）の質の向上という成果を上げることが必ず求められる。

【共通の課題】・・・与謝野町行財政経営アドバイザー 杉岡秀紀

- ①ベースとなる数字（満足度、ニーズ実態調査など）が存在しない（弱い）。
- ②アウトプットとアウトカムの差別化  
（基本アウトプットの主語は行政、アウトカムの主語は住民）
- ③根拠や目的は1つであるとは限らない

以上

公民連携プラットフォーム「効果的なサウンディング市場調査の進め方」より

⇒民間事業者が欲しい情報（抜粋）

- 施設別の利用状況（日別、時間別の来客数、売上、駐車数等）
- 利用者情報（属性：年齢層・人数、利用交通手段、評価：要望やクレーム等）

常日頃からの把握が大切